

平城宮跡資料館における 木簡に関する多言語リーフレットの配布

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび私ども奈良文化財研究所では、訪日外国人向けに従来とは全く異なる発想に基づき、「手に取りたくなる」「読んでみたくなる」「共感してしまう」「持ち帰りたいくなる」をコンセプトとした木簡解説リーフレットを作成し、配布を開始いたします。つきましては、よろしく報道いただくと共に、今後に向けてのご意見等を頂戴致したく御連絡申し上げます。

※今回の主要内容：

訪日外国人用に木簡の多言語による全く新しい着想の解説リーフレットを作成し配布開始を予定

- ・各国語ごとに、その文化的背景を考慮した独自のリーフレットを作成
- ・若手の外国人研究員3名が、木簡担当研究員3名とそれぞれタグを組んで、難解な日本古代木簡紹介に取り組んだ
- ・若手外国人研究員3名の新鮮でかつ各国の文化的背景を考慮した感性に基づいて、商業利用等に留まっていた多様で斬新な「仕掛け」を用意して関心の惹起につとめた。
- ・3月13日より平城宮跡資料館で配布開始。

1、多言語リーフレット作成の背景

(1) 訪日外国人に対する木簡解説の必要性

- ・奈良文化財研究所と平城宮跡資料館の役割

奈良文化財研究所は、ナショナルセンターとして我が国の古代国家成り立ちの様相解明に当たっており、その研究成果に基づきつつ、我が国の歴史文化を広く市民や訪日外国人に伝え、理解を促す責務を有しています。そのための重要な場の一つが、平城宮跡資料館です。しかしながら、空間の限界もあり、多言語での案内や説明が必ずしも十分とは言えません。

現在は、新型コロナウイルスの影響で訪日外国人は減少していますが、将来的には回復が見込まれます。訪日外国人に、平城宮跡の魅力を伝え、我が国の歴史・文化の理解を促進するために、平城宮跡資料館を中心として、多言語による、より平易でわかりやすい解説を拡充していく必要があります。

・「木簡」は重要だが「ハードルの高い」文化財

木簡は、日本の古代国家形成や日本文化成り立ちの理解の上で、非常に重要です。しかしながら、木簡は文字・言語による情報伝達手段であるため、他の文化財に比べて、訪日外国人にとって理解が格段に困難で、「ハードルの高い」文化財です。漢字文化圏の人びとにとっても、字体の違いや日本古代特有の表現や制度などの理解が必要となるなど、様々な障壁があり、その理解は困難です。

そこで、世界に向けて我が国の歴史・文化を発信し、平城宮跡の理解の促進を期するために、多言語による木簡の解説は特に強く求められます。

(2) 多言語リーフレットの概要

・基本コンセプト

訪日外国人の使用言語の比率に鑑み、英語・中国語（簡体字・繁体字）・韓国語の3カ国語（4種類）の解説を用意することとしました。また、展示・解説スペースの関係から、リーフレットを作成して配布することとしました。リーフレットは、手に取ってもらって読んでもらう必要があります。

そこでリーフレット作成の基本コンセプトを、

「手に取りたくなる」・・・接点を確保し関心をもってもらう

「読んでみたくなる」・・・内容に踏み込んでもらう

「共感してしまう」・・・理解し関心を高めてもらう

「持ち帰りたいくなる」・・・さらに各方面にひろめてもらう

の4点としました。

・リーフレット作成・デザインの発想と手法

奈良文化財研究所には、3名の若手の外国人研究員が在籍し、文化庁文化財多言語解説整備事業の一貫として、展示解説等の多言語化に取り組んでいます。4コンセプト実現にむけた具体的なリーフレット作成計画を、上記3名の外国人研究員を中心として検討しました。

通常であれば①日本語版の簡易な解説・リーフレット作成（デザイン含む）→②日本語を外国語に翻訳 という工程をとります。しかしながら、今回は上記3名より、コンセプト実現のためには、文化的背景が異なれば関心を持つ内容や理解の癖が異なる点等の指摘があり、以下の**全く新しい手法を採用**することになりました。

○違う言語文化圏からの訪日外国人のために、それぞれの言語文化圏に親和性が高い様に、**各言語毎に内容・デザインなど全て異なるリーフレット**を作成する。

○各言語ごとに、解説内容を用意する担当研究者を決め、3名の担当外国人研究者と共同で作業にあたり、**各言語に最もふさわしい内容を模索しつつ、それぞれの世界観を表現する。**

○外国人来訪客が母国に持って帰りたいくなるようなリーフレットを目指す。形の面も工夫し、**変わった特殊ギミックでお客さんがアツと驚き、楽しめるもの**を作る。

若手外国人研究員ならではのしなやかで**ダイバシティに富んだ感性と、実現に向けた熱意と努力**、またそれらに影響された**木簡担当研究員との二人三脚**とも言えるべき協業により、今回の新しい着想に基づくリーフレットが実現しました。

・各言語のリーフレットについて

英語版：形は「フラッパー」という特殊変形印刷を採用し、ページをバタバタめくると、木簡調査研究の流れや研究における削りくずの重要性などに関する情報が次から次へと出てきます。その内容は、西洋からの来訪客を対象に、木簡とその発掘調査及び保存の方法を紹介するものです。

中国語版：木簡を収蔵する桐箱を彷彿させる形になっています。木簡の豆知識クイズをわくわく解きながら、六角形のページを花卉のように開いていくと、最後に「宝」が現れます。さらに、リーフレットのQRコードを読み込めば、奈文研リポジトリから各木簡の詳細情報を書いた中国語版解説シートをダウンロード・閲覧することができます。

韓国語版：表面は貴族邸のコース料理をイメージした優雅なデザインで、各頁に再現された古代料理の写真を載せて組み上げています。裏面は、わかりやすい説明を入れるとともに、かわいいイラストなどでポップな雰囲気を出そうとしました。食べ物が大好きな韓国人に日本の古代料理を紹介し、日本の食文化に対する理解を深め、より親しみが感じられるようにすることを目指しました。

(3) 期待される効果等

・外国人来訪客の関心喚起

平城宮資料館に来訪する外国人に「木簡」の面白さを感じ取ってもらうことを通じて、平城宮跡を基とする日本古代文化への関心を深める入り口になると期待されます。

・日本文化への理解を深める

リーフレットの内容を通じて、日本古代文化、ひいては我が国の文化に対する理解を深める契機となると考えられます。また上記の関心喚起と相まって、より深い我が国の理解につながると期待されます。

・リーフレットが海外でも宣伝媒体として機能する

観光庁による訪日外国人消費動向調査(2019年7-9月期【1次速報】)によれば、出発前に得た旅行情報源で役に立ったものは、SNS(23.6%)、個人のブログ(22.6%)、自国の親族・知人(19.6%)の順になっています。SNS、個人ブログ、親族知人による口コミ的な要因が大きいです。今回、お土産として持って帰りたいくなるようなリーフレットにしています。外国人来訪客が帰国してもそれぞれの国で、家族や友人にリーフレットを紹介してもらえます。口コミ等で宣伝効果が高まります。

・配布予定等

日時：2021年3月13日(土)より平城宮跡資料館にて設置配布予定

数量：英語版リーフレット 1000部

中国語版リーフレット 簡体字 1000部 繁体字 1000部

韓国語版リーフレット 1000部

お問い合わせ先 奈良文化財研究所企画調整部 高田 Mail soran_nabunken@nich.go.jp

以上

